

雷のような逆毛を背負った、美しい私の犬

幼い頃海外で暮らしていたまどかは、番犬用の仔犬「虎」と出会った。

唯一無二の相棒だったが、一家は帰国にあたり、犬を連れて行かない決断をして——。



感動の声、続々！

犬との深い絆と、それでいて絶対に越えられない断絶とが、まざまざと書き出されている。

— 紀伊國屋書店京橋店 坂上麻季さん

心の最深部まで行けるような得難い相手を忘ることはできないし、誰も代わりにはなれない。

— ジュンク堂書店上本町店 光定真美子さん

獣の本能、人間から犬への愛、犬から人間への献身、恐ろしい美しさと生々しさ、汚さと尊さ。

圧倒的な「生」の物語。

— 田村書店吹田さんくす店 村上望美さん

体の奥深くに刻まれるような愛の物語。

二つの命が重なり合った、大切な想い出が残像のように、胸に残る。

— 紀伊國屋書店福岡本店 宗岡敦子さん

抱きしめたくなつた。

私が抱きしめたところで虎の代わりにならない。けれど、10歳のまどかを抱きしめて泣きたい。

— TSUTAYA 南古谷店 石木戸美穂子さん

「一生書きたくなかった気もするし、書いて救われてしまった部分もある」

直木賞作家 千早西

感動の
最新作

雷と走る